

源融ゆかりの塔

印月池の小島に建つ九重の石塔「源融ゆかりの塔」は、鎌倉時代（1185～1333 年）のものと考えられ、渉成園よりもかなり古いものである。大臣や詩人だった源融（822-895）は、天皇の息子であり、世界最初の小説とも呼ばれている「源氏物語」の主人公である光源氏のモデルになったとも言われている。

この塔がなぜ現在の場所にあるのかは定かではないが、17 世紀に渉成園が建設されたとき、この場所には源融の屋敷があったのではないかと推測する人がいたという。歴史的事実ではないが、この説に触発された庭園の設計者たちは、9 世紀の架空の風景をデザインに取り入れたのである。